

黒田 章裕氏



松崎 公一氏

大阪・関西万博 夢洲は関西の未来都市化へ向けた “壮大な実験場”

社会課題のソリューション提示という、
かつてないアプローチで世界から注目を集める 2025年大阪・関西万博。
いま関西を未来都市に変貌させる千載一遇のチャンスを迎えている。

今回の対談では、建設業界を代表して松崎氏がホスト役となり、
関西経済同友会代表幹事として、
誘致から決定までの一連の活動で尽力された黒田氏に、
万博そしてポスト万博を見据えた関西について伺った。

日本が世界の課題を 解決する救世主に！

松崎 2018年11月に、パリで大
阪・関西万博が決定した時は本当に
多くの関西の方々喜びました。ご
苦労も多かったではありませんか。
黒田 結果が出るまでは大変なこと
もありましたが、いざ決定してしま
うと喜びと達成感で苦労も吹き飛ん
でしまいましたね。当初から諸外国から
の日本の評価はずっと一番でした。投
票のお願いに大使館巡りをした際は、
発展途上国の方々から、教育や医療
等でお世話になっている日本を支持し

ますと声をかけていただきました。

松崎 『いのち輝く未来社会のデザ
イン』というテーマですが、これまでの
万博と違う点はどこですか。

黒田 先進諸国では高齢化が進行
し、健康寿命と平均寿命の差が課題
になっていますし、発展途上国では
感染症や災害での防災・減災など世
界は生命に関わる課題が山積みです。
そこで日本の注目されている再生医
療はもちろん、幾度の地震や台風の
甚大な被害から人命、都市、国を守
り短期間で復興再生してきた最前線
の技術力や課題解決する英知を伝え
るために『いのち』に特化した万博にす



(上) (下) 2025年大阪・関西万博会場イメージ
提供：経済産業省

ることを表明したのです。日本が率
先して世界に向けお手本を示して
くれるなら、ぜひ自国の課題解決の参
考にしたい、そんな切実なニーズが後
押しをして諸外国の支持を集めるこ
とに成功しました。これまでの自国
自慢、国威の発揚、自社自慢のため
の万博の方向性が大きく変わった瞬
間でしたね。
松崎 今度の万博は、国連が掲げる
2030年までのSDGs（持続
可能な開発目標）の一つの通過点にも
なっているんですね。
黒田 SDGsは、主に今後人口
拡大していく国が抱えるであろう社
会課題を解決するため17の目標（ゴー
ル）を掲げています。「飢餓をゼロに」
「すべての人に健康と福祉を」という
ような。2025年の日本の万博は
これらの取り組みを達成するために
も極めて重要な役割を担っています。
また万博を挟む前後5年、これまで
の世界の科学技術や情報技術などの
テクノロジ、そして人間が作ってき
た資本主義等がダイナミックに変貌し
ていくと思われれますので、その時期に
世界をリードする変革した日本の姿
を見せていけることは大きな意味があ
ると思います。

関西経済が浮上する いまが“天に与えられたとき”

松崎 関西の地で行われるというこ
との強みや独自性も意識しておられ
ますか。

黒田 大阪・関西は医療研究施設が
充実し、ライフサイエンス分野に強み
を持つ、まさに生命・健康に関する社
会課題の解決提示にふさわしい地で
す。さらに、東京オリンピックの翌年
にアマチュアスポーツの祭典「ワールド
マスターズゲームズ2022（関西）」を
開催し、一般市民がスポーツを観戦
するのではなく自ら楽しんで行う機
会を関西発で広めようとしています。

松崎 社会課題を解決する万博の前
哨戦としても、ワールドマスターズ
ゲームズは重要なですね。

黒田 大阪が世界でこれまでになく
注目を集めているのです。この機会
に万博だけでなくワールドマスター
ズゲームズもテーマに沿うものとし、
万博につなげていくべきです。アジア
でも初の大会ですから、多くのアジ
アの方々の参加も見込んだ大会にすべ
きだろうと思います。今後新たな施
設やサービス、機能や環境が整備さ
れ、大阪のまちにはこれまでになく

ボランティアが増えたり、いろんな事業が発展するなど変化が見込めるでしょう。そんな状況が万博開催まで、そしてSDGsの2030年のゴールまで続くのです。これはもう、天に与えられたときですよ。いま我々がすべきことは、大阪は遊ぶのもおもしろい、仕事もおもしろい、世界の最先端技術もある、社会課題のソリューションにも満ちていると、いろんな魅力を感じてもらえるまちとして進化していくことです。この百年の世紀の中で考えてもいますが大阪・関西にとり千載一遇のチャンスです。

従来の発想を超える 見たことのない万博を！

松崎 我々日建連関西支部としましては、夢洲エリアを大阪や近畿圏とどのように結びつけていくかのインフラ整備に注力しているのですが、関西だけでなく他地域にも及ぶ今回の万博の経済効果、広い地域からの集客力を考慮しますと、西日本、全国、さらには海外とのラインの強化も視野に入れておかないといけないですね。

黒田 現在でも大阪はインバンドで2千万人以上の観光客が訪れています

う形で関西からどんどん広がっていくと思います。日本だけじゃない、世界が困っている社会課題の解決策をさらに提示していければ、例えば大きくなくてもGAF Aのような世界的な存在も生まれてくるかも知れません。

松崎 大阪・関西の今後を考える上

夢洲を日本観光の ゲートウェイとして捉え、 交通網全体の構想が必要です



が、万博開催時、さらには終了後のMICE等への訪問を考慮すると公共交通等のインフラ整備は重要な課題です。夢洲を日本観光のゲートウェイとして捉え、交通網全体で構想する必要があります。例えば、夢洲は島ですから船を利用する手もあります。夢洲は瀬戸内海の入口にもあたりますから、万博を瀬戸内海一帯を含めて捉えていくのも良いと思います。四国で宿泊して、会場のある大阪までゆつたり観光しながら船で乗り着くなんて最高じゃないですか。時間に追われずのんびり移動ができる。神戸港に寄って姫路城を観光するのも良いですね。3空港の便利さにとどまらず、もつと海を活用してほしいと思います。さらに、夢洲に乗り入れたり循環するのに自動走行車を活用したり、モバイルによる道案内や翻訳機能、予約やチケット機能を組み合わせてシステム活用する情報インフラの整備も併せて計画が必要になると思います。

松崎 2025年の万博そのものがすでに未来社会を体現していると思われませんが、会場の施設等への構想をお持ちですか。

黒田 実際に会場に足を運ぶ人は2800万人程度を見込んでいます

で、やはり夢洲のまちづくりプランが重要になってきますね。

黒田 夢洲は、新しいライフスタイルを体現する「未来の実験場」だと思えます。人の生活が住宅としてベースにありながら、国際会議場、アジアでも一二を争う展示場、1万人がショーを見ながら食事のできる施設、また、美術館・博物館のあるMICEという世界屈指のエンターテインメント機能と共存。さらには、最新のテクノロジーによりまち中の全ギヤッシュレス化が進んだり、サブスクリプション方式で自動車を持たなくても月々わずかな額で乗り放題になるなど、日本政府が目指す「ソサエティ5.0」を実現する新たな価値や可能性に満ちたまちになると思います。私個人としましては、『いのち輝く未来社会のデザイン』という万博のテーマを受け継ぎ、医療機関や研究施設ができるのも良いのですが、ワールドマスターズゲームズの開催後、人々がスポーツに親しんだり、健康づくりのできるアクティビティなどをつくっていくのも一計かなと考えています。

松崎 建設業界としましては、業界における最高のテクノロジーを投入して万博を成功裏に導くことを使命と

が、VR（バーチャルリアリティ）の導入も考慮すると2〜3億人は来場することになるだろうと予測しています。ハンディキャップがあつて歩けない方やお金がなくて来日できない外国の方などもスマホなどを利用して会場を巡り、楽しんでいただけるようになりそうです。何億という人が万博に足を運ぶことができる、大阪万博は時代を一変する象徴的なイベントになると思われます。科学技術がいまよりもつと進化し、5Gも普通になり、さらにバーチャルも触つて感觸を得られるぐらいになるかも知れませんが、訪れる人は多いと思います。会場に100人でもその背後に何千万人という観客がいることが想定でき、自ずと受け入れられるパビリオンもこれまでにない、それにふさわしいものをお願いしたいと考えています。

未来都市関西の姿は 夢洲を原型に

松崎 万博開催以降、大阪・関西が国際交流都市としての足場を固め、令和の時代にどう持続的発展を遂げているか、そのためにどういうビジョンを持つて進んで行くべきかお聞かせ

していますが、その後の大阪・関西の持続的発展を考えれば夢洲のスマートシティ化についても英知を結集していく必要があると考えています。具体的には建築・土木・開発におけるこれまでの専門技術にICTやAIの新たな技術と知恵を自動化・生産性向上のために駆使していくこと。そしていかに早期に造成やエネルギーインフラ・交通インフラ・環境そして施設群を整備していけるか、建設業の果たす役割は大きいと実感しています。今後も国や自治体、経済界の方々と密な連携を図り、万博の成功と令和の時代の大阪・関西の成長のために貢献していきたいと考えています。大阪万博は建設業界にとつても挑戦の価値ある実験場になると思います。



1970年大阪万博開催風景

ください。

黒田 2025年大阪・関西万博は、その後の展開を踏まえて、大阪・関西の有り様を大きく変化させるイベントであることは自明です。ポスト万博で我々がすべきことは、万博で発信したさまざまな社会課題解決のための方策を、夢洲でまず実装・実験し、そこで検証したものを大阪・関西に広げていくことです。そこにどこよりも早く、先端テクノロジーと融合する「未来都市関西」の姿が見えてくると思います。経済の活性化の面でも、産学官の連携がこれまでより集約され、今まで一國一企業一地域にとどまっていたさまざまなテクノロジーが、今後若い人々を中心にしたベンチャーとい



松崎 公一氏

一般社団法人 日本建設業連合会 関西支部長
鹿島建設株式会社 専務執行役員 関西支店長
関西経済同友会 /
大阪・関西EXPO2025委員会 及び
MICE・IR推進委員会 副委員長

1953年大分県出身
早稲田大学理工学部 建築学科卒業



黒田 章裕氏

コクヨ株式会社 代表取締役会長
関西経済同友会 /
前代表幹事 現特別幹事 総合政策審議会議長
日本万国博覧会誘致委員会 副会長

1949年大阪府出身
慶應義塾大学経済学部卒業

この対談は8月2日に行ないました。今回は従来と異なり、関西財界を代表して万博誘致に貢献された黒田氏に、松崎氏が建設業界を代表してお話を伺うというインタビュー形式で実施しました。今後も2025年まで多様な業界からゲストを招き、大阪・関西万博と関西の未来像についてそれぞれの視点から語って頂く予定です。ご期待ください。

(編集部)